



ミニストップ株式会社

管理本部 人事部
人事チームマネージャー
板東 功太郎さん

企業プロフィール

- 事業内容：コンビニエンスストア
- 従業員数：897名(2011年2月末現在)
- URL：<http://www.ministop.co.jp>

ゆっくり休める環境を作る

実践! こうすればできる! こうすればのびる!

- ① 気兼ねなく休める環境作り
- ② 取得したくなるような休暇を作る
- ③ 休暇を取得=モチベーションアップと考える

ダイバーシティ推進 会社全体で業務改革

数年前、「SA業務改革」の名称の元、会社全体の業務改革に取り組んでおりました。その業務改革の一環として、「ゆっくり休める環境を作る」ことを目的として「休日と残業を何とかする分科会」ができました。その中で、営業の現場であるストアアドバイザー職が長い休みをとれていない、一方で営業地区によってはしっかり休みをとれていることがわかりました。これは現場による繁忙度ではなく、制度や管理に課題があるのではないかとということで、気兼ねなく長く休めるような仕組みを作ることになり、分科会の中で議論を重ねていきました。まずは、親しみやすいネーミングの「うっきうきホリデー」を設けて休暇取得の促進を図る、あるいは勤続年数に応じた特別休暇「リフレッシュホリデー」の取得を促進しています。

さらに、SA業務改革の中で発足していた「ウーマンズ☆パワー分科会」が「ダイバーシティ推進委員会」に移行し、その中で次世代育成支援に関連して、育児勤務者にどのように活躍してもらうか、実際に育児勤務者の状況を確認しながら進めているところです。実際に3~4年前から女性の採用を増やしているこ

ともあり、いろんなステージにある女性が増えてきている状況です。

このように、ダイバーシティの推進、休暇制度の拡充を進めています。また、各種制度を「Lifestyle NAVI」という冊子にまとめ、社内のイントラネットに掲載をして周知を図っています。

リフレッシュホリデー

「リフレッシュホリデー」は、昔からある制度であり、勤続10年ごとに10日の休暇を付与し、取得してもらうものです。10年に一度、ゆっくり体を休めてリフレッシュしてもらう、あるいは普段できない事にチャレンジして見聞を広めてもらうなど自己啓発を目的とした制度です。休暇取得推進の流れの中で、原則として連続10日の取得を推進しています。実際にこの休暇取得を楽しみにしている社員が多いです。各職場では、せっかくの休暇制度なのだからということで、期首にまず計画を立てるように促して、取得を推進しています。休暇の申請は社内イントラネット上で行うのですが、各自が仕事を前倒しするなど、計画的に休暇を取得できるよう職場の上司やメンバーと事前に調整しています。



CVS商品本部
米飯・デリカ商品部
全国商品開発チーム
山崎 俊治さん
(リフレッシュホリデー)

決められた休暇は 率先して取得することが大事

私はかつて人事部に所属していたこともあり、休暇の取得には積極的です。上の者が進んで休まなくては、皆が休めるようにはなりません。仕事の自己管理ができていけば休みは取れるのです。勤続30年のリフレッシュホリデーでは10日間の休暇と土日を入れて合計16日間をかけて西日本を巡る旅行を楽しみました。

実は、この休暇を取得するために半年先まで商品企画を決めて準備をしていたのですが、部署間の異動により商品の担当が変わってしまったのです。とはいえ商品企画もこれからスタートするところでもあり、休暇を新しい商品担当分野の情報を集めて新規商品開発に活かすことに決め、思い切って休むことにしました。もちろん、休暇取得後に腰を落ち着けて仕事に取り組めるように事前に仕事の段取りをつけて休暇に入りました。

食品の商品開発に関わっていることもあり、日頃から食べ歩きなどして情報を集めるのが性分になっています。リフレッシュホリデーも、自己啓発そして新規商品開発のために積極的に食べ歩きました。こうした経験や収集した情報の積み重ねが、いい商品を生む元になっていると思います。休暇でリフレッシュすることは、仕事にいい影響も与えるものだと思います。

うっきうきホリデー 連続して休んでもらうのが目的

「うっきうきホリデー」は、所定休日と有給休暇取得推進のために連続休日制度として2008年9月から導入しました。これは、「休日と残業を何とかする分科会」の中で、所定休日取得推進のために、「連続休暇制度」と書くのが堅苦しく感じるため、楽しくなるようなネーミングにしようという流れで「うっきうきホリデー」と決めて、会社の承認を得てスタートした制度です。休暇をとりやすい環境を作れば、モチベーション向上にもつながると考えています。

この休暇は、半期に1回5日と月度の所定休日2日をつなげて、まとめて7日間休暇を取得できるというものです。昨年の取得率は90%以上となっており、取得率が高く浸透している制度となっています。半期毎に休暇を取得して海外旅行に行っている社員もいるようです。

休暇を取ると自分自身が変わる

仕事柄いろんな刺激を受けることが大事だと思っています。例えば、海外旅行に行っても、現地のスーパーや高速道路のサービスエリアなどに併設されているショップを見たり、仕事をしているのではないかとというくらい見学してしまいます。現地の雰囲気を感じてくることで、気持ちもリフレッシュするし刺激を受けます。当社の業種の特徴かもしれませんが、このような社員が多いようです。

もちろん、普通の暮らしがどうなのかも気になります。普段行かない時間帯のスーパーに出かけて普通の生活者と同じ日常に触れることも大事です。休暇を取り、リフレッシュし、刺激を得ることは、自分の業務においても重要だと感じています。

商品戦略部
プロモーションチーム
濱野 智江さん
(うっきうきホリデー)



うっきうき ホリデーで旅行

保育所に子どもを預けていることもあり、普段一緒にいない分、うっきうきホリデーを活用して子どもと楽しく過ごす時間を作っています。子どもにとっては5日間でも、親と一緒にいられるのは大きな出来事になっているようです。旅行では普段見られない子どもの一面を垣間見たり、旅行の思い出を話している子どもを見るとうれしくなります。長期休暇のときは「普段できないことを家族でやる」、休暇を活用してそんなきっかけを作りたいと思っています。